

令和 8 年度第 1 回秦野市廃棄物対策審議会概要

- 1 日 時 令和 8 年 8 月 5 日（水）
午後 3 時 0 0 分から午後 4 時 2 0 分まで
- 2 場 所 秦野市浄水管理センター 4 階 A 会議室
- 3 出席者 1 2 名（欠席 2 名）

東海大学名誉教授	原田一郎委員
東海大学教養学部人間環境学科教授	小栗和也委員
東海大学教養学部人間環境学科教授	勝田悟委員
秦野市自治会連合会副会長	和田健委員
	（代理：牧石氏）
秦野市農業協同組合女性部副部長	片倉真弓委員
秦野市商店会連合会副会長	渡邊博之委員
秦野商工会議所	高橋大助委員
東京地方税理士会平塚支部	井上慶彦委員
消費生活センター	宇佐見淑子委員
公募市民	稲本美保委員
公募市民	小山田規子委員
公募市民	石井慶典委員
※欠席者	
公益社団法人神奈川県宅地建物取引業協会	
湘南中支部秦野地区代表地区長	樺島進一郎委員
秦野市食生活改善団体	古谷典子委員
- 4 会議概要
 - (1) 新規委員への委嘱状交付、会議資料配布（机上配付）
 - (2) 部長挨拶、事務局紹介
 - (3) 事務局より、委員 2 名欠席（樺島委員及び古谷委員）であるが、秦野市廃棄物対策議会規則第 6 条第 2 項に基づき、会議が成立していることを報告。

(4) 報告事項（要点筆記）

ア 秦野市のごみ処理の現状について

資料1の概要について事務局から説明し、その内容について委員から次の(ア)～(カ)のとおり意見、質問等が挙げられた。

(ア) 可燃ごみ、不燃ごみ共に減少しているが、資源物がもっと増えてくると良いと思う。昨年度から一括回収が始まったプラスチックについては増加しており、市民と上手く協力が出来ていると思う。

(イ) 各ごみの量について、一人当たりの排出量についても同様の傾向があるのか。

（事務局回答）後述のごみ処理基本計画の改定に際し推計値の算出を行っている。その結果を見ても一人あたりのごみ排出量は減っている。

(ウ) プラ新法（プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律）の施行の影響によるプラスチックの減少はあるのか。

（事務局回答）昨年度から開始した一括回収によって、それまで可燃ごみになっていた製品プラスチックがプラスチックとして回収できるようになったため、回収量が増えているように見える。影響はあまりないと思う。

(エ) 国際情勢によってプラスチックの全体量が減ってくる可能性もあるが、それによる懸念点等はあるのか。

（事務局回答）ごみ袋を有料化している自治体では、袋の確保等で影響が出ているようだが、秦野市では現状有料化の予定はないため、当面の間は大きな問題はないと考えている。

(オ) プラスチックが可燃ごみに混ざらなくなると、焼却施設の燃焼効率が悪くなり、燃料の追加などで地球温暖化対策と逆行してしまうのではないか。

（事務局回答）はだのクリーンセンターとも話をしているが、今のところ顕著な問題となっていない。

（追加意見）今後そのような課題が出てきた場合には、生ごみに含まれる水分を減らしていく等、さらなる減量につなげることが出来れば良いと思う。

(カ) 可燃ごみの量について、家庭系と事業系に分けることは可能か。

（事務局回答）毎月の実績報告を受けており、その中で家庭系と事

業系を分けて報告していただいている。比率としては、家庭系が毎月 2000 トン、事業系が毎月 700 トン程度である。

（追加質問）事業系ごみが減っていると、事業活動が減っているということになり、秦野市の経済が衰退しているとも考えられるのではないか。家庭系と事業系を分けて示せば、こういった面でも検証ができると思う。

（事務局回答）事業系ごみについては今後、市内事業者の実態調査を予定しており、その結果などでも評価していこうかと検討している。

イ 秦野市ごみ処理基本計画の見直しについて

資料 2 の概要について事務局から説明し、その内容について委員から次の(キ)～(ケ)のとおり意見、質問等が挙げられた。

(キ) 今回はあくまで予定であり、実際どのように改定するのかは次回開催時にははっきりしているという認識でよいのか。

（事務局回答）次回開催時には素案として皆様に確認いただく予定。

(ク) 改定をするときには、課題を明確にしたうえで改定をする必要があると思う。

(ケ) 焼却施設 1 施設で秦野市と伊勢原市との可燃ごみを処理しなければならないという独自の課題があり、安定処理を続けるためにごみの減量をする必要がある。このために必要な計画としてごみ処理基本計画があるため、これをイメージしないと秦野独自の計画にならないと思う。進むべき道をしっかりと示して計画を改訂してほしい。

(コ) ごみの量を減量することを掲げているが、金銭的な面での議論はしなくても良いのか。

（事務局回答）ごみ処理に係る経費については、全て焼却するのが一番安くなるという現状がある。しかし、カーボンニュートラルや、次世代へ良好な環境を引き継ぐなどの目的のために分別を進めている。経費のことも考えなければならないが、まずはごみの量を減らしていくことを目標とした計画である。

（追加意見）市民は経費を気にするのではないのか。

（事務局回答）処理経費や資源物売却等の歳入については、減量通信等の広報媒体や、ホームページ、スマートフォン向けアプリ「さん

あ〜る」等を活用してタイムリーに市民へ情報発信していきたいと考えている。

(㋈) リチウムイオン電池類について、現在は売払っているのか。

(事務局回答) そうです。

(追加質問) リチウムイオン電池の買取りについては認定事業者とやり取りしているかと思うが、処理困難物については、中長期的にみると買取り金額が下がることや、場合によっては処理経費が掛かる可能性もあるため、早めに対策をしていった方が良いと思う。

(事務局回答) 今後の動きを見つつ、伊勢原市、二市組合とも継続的な協議を進めていこうと思う。

(㋉) リチウムイオン電池の他に、プラスチックなども今は売ることが出来るようになってきている。現時点では処理経費が掛かっているものでも、長い目で見れば処理経費が掛からなくなるものもあると思うので、計画でもこのような説明があると、環境への理解が深まると思う。

(㋊) (事務局追加説明) 技術革新もあり、今後、資源化できるものが増えてくると思うが、どこまで資源化するのは、運搬経費とのバランスなどの秦野市の現状を踏まえた上で検討していく必要がある。

(追加意見) 細かい数字までは出せないと思うが、今の方針等も計画に記載すれば面白いと思う。

(㋋) 最近のトレンドとして有料化があり、現在の計画ではただごみが減っているから有料化していないとなっているが、処理経費も含めた方針を示した方が良い。

(追加意見) 有料化すればごみが減量する可能性もある。また、周辺の自治体が有料化しているのに秦野市だけ乗遅れてしまう可能性もある。計画に載せなくてもよいが、この審議会では把握しておく必要があると思う。

(事務局追記) 有料化について、戸別収集の導入も含め、検討をしていく。

ウ 次回の審議会について

次回の審議会は、10月に実施を予定し、計画の改定素案を示し、市長からの諮問を行うとした。

以上